


 新型インフルエンザウイルスパンデミック(大流行)とその対策	1ページ
 ダイエットピザ/今月の植物を探せ! vol.3/医療福祉相談室だより今月のイチオシ図書	2ページ
 糖尿病ワンポイントアドバイス/「糖尿病教室7月」のお知らせ	3ページ
 外来からのお知らせ/アレルギー教室のクッキング/外来診察のご案内	4ページ

新型

インフルエンザウイルス パンデミックとその対策 (大流行)

今ヒトの間ではやっているインフルエンザウイルスは、Aソ連型、A香港型、B型の三種類です。この三種類以外のヒトからヒトへ効率よく感染するようになった新しい型のインフルエンザウイルスが新型インフルエンザウイルスです。

今までの経験では、新型インフルエンザウイルスが登場すると、はじめの2年間に約半数の人がかかり、0.1~2%の人が死亡しました。特に1918年に出現したスペイン風邪ウイルスは死亡率が高かった(2%)ことで有名です。多くの若者が細菌による肺炎で亡くなりました。興味深いことに、新型インフルエンザウイルスの出現年が現在に近づくほど、死亡率が低下しています。医学の進歩と関連があるかのようです。なお、毎年流行するインフルエンザウイルスによる死亡率は0.05%ですので、現在の医学をもってしても、インフルエンザウイルスは手強いウイルスです。

この5年間、東南アジアで高病原性鳥類インフルエンザウイルス(AH5N1)が人に感染し、感染した人の60%がなくなっていました(英語のAvianは「トリ」ではなく「鳥類」です)。歴史上2回の新型インフルエンザウイルスが東南アジアから出現していましたが、高病原性鳥類インフルエンザウイルスが新型インフルエンザウイルスに代わることが恐れられていました。しかし、2009年4月に認められたアメリカ・メキシコ発の新型インフルエンザウイルスはブタ由来でした。

高病原性鳥類インフルエンザウイルスはニワトリのウイルスですが、ブタ由来インフルエンザウイル

ス(S-OIV)はヒトのインフルエンザウイルスです。このウイルスにかかると、発熱(≥38℃)、咽頭痛、咳などのいわゆるインフルエンザ様症状が出現します。かかると重たくなる人は、毎年のインフルエンザウイルスにかかると重たくなる人と同じ人(慢性の呼吸器疾患がある人、寝たきりの人、慢性の循環器疾患のある人、慢性の腎臓疾患がある人、高度肥満の人、妊婦、コントロールの悪い糖尿病の人、高齢者、乳幼児など)たちです。S-OIVにかかったと診断されれば抗インフルエンザ剤(タミフル®、リレンザ®)を服用して下さい。日本では十分備蓄されていますので安心して下さい。

S-OIVに対するワクチン(S-OIVワクチン)が急いで製造されていますが、日本でのパンデミックに間に合うかは分かりません。先ず季節性インフルエンザワクチンの接種を受けて、09/10シーズンに流行すると予測されているA香港型に備えてください。次にS-OIVワクチンが準備されれば、かかると重たくなると予測される人は、S-OIVワクチンを受けて下さい。高齢の方は、肺炎を予防するための肺炎球菌ワクチンも受けて下さい。なお、S-OIVはウイルス学的に1918年~1956年にかけて流行ったスペインかぜウイルスに近いウイルスです。60歳以上の人は、かかっても軽くすむという考えもありますが、パンデミック時に証明されるでしょう。

新型インフルエンザウイルスの流行は大規模災害と同じです。パンデミックが起こると社会機能が一次的に低下しますので、2週間程度の食料品や日用品の備蓄が必要です。慢性の病気を

持っている人は、2週間程度の医薬品のストックも必要でしょう。大規模災害に備え、自分の身を守る手段を一度考えてみてください。

(院長 庵原 俊昭)

